

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071401717
法人名	株式会社 あおいホーム
事業所名	グループホーム あおい (ユニット名 2F)
所在地	福岡市早良区西入部2-7-20
自己評価作成日	平成30年1月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昔の懐かしさが残る環境に恵まれ、庭園には畑もあり、季節の野菜の収穫も楽しみのひとつである。朝の外気浴は、身体的・精神的にも入居者の健康の源になっている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成30年2月21日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	あおいの理念及び基本方針は、設立以来変わらず、全職員が十分に理解し、朝礼で唱和し1F2Fの玄関や事務所に掲示している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事等には地域の方々をお誘いし、ボランティアの方は殆ど毎日入居者の話し合い話し相手になって頂いている。2ヶ月に1回開催している運営推進会議も地元の方を招き交流を兼ねている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当施設のパンフレットや機関誌等を地域の方や事業所に配布・郵送している。入居に関する問い合わせには見学を呼びかけ、施設での暮らしを知って頂き、地域の方にとっての支援を考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、地域の民生委員・地域包括支援センター・訪看ステーション理事長・家族会の代表2名の出席を得て、あおいの職員(看護師・介護士)より入居者の状況報告も兼ね活発な意見交換を実施している。他施設からの参加も歓迎している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市・地域包括との連携を密にして、情報交換をしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は、あくまでもしないと言う職員全体の意識を強く持ち、自然で穏やかな生活を送って頂く為の工夫を考え、外部の研修等も生かしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修・内部研修を踏まえ、不適切なケアを行う事の無い様、職員の介護に対する意識を高め、お互いストレスを溜めないように声かけをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、グループホーム協議会及び研修等で権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を得る。その成果を研修報告として職員会議等で職員に伝える様にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解約又は改定等の際は、利用者の家族に充分説明し、理解納得して頂き了解を得る。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が気軽に面会に来やすい雰囲気や環境作りを心掛け、職員としてのコミュニケーションを図りながら、利用者の様子や家族の意見等を参考にしてケアプランに生かしている。		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回の職員全体の会議を実施している。終了後は各階においてフロアミーティングを行い、職員間の意見を出し合い運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や勤務状況を把握し、給与水準を検討し、個々がしっかり自分の能力を発揮し仕事ができる様な環境を作りたいと考えている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	管理者として、職員の採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しない様にしている。又、職員が働きやすい環境を作るべく個々の能力を発揮し易い勤務体制を作りたいと考えている。		
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員の外部研修への参加を促し、入居者に対しての対応・言動・一人ひとりに尊厳を持って介護に当たる様に指導している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	イベント等の企画を担当する事により、職員一人ひとりの実力を確認し合い全体的に能力を高めている。行事等の主旨を理解し、各担当の責任を個々で感じてもらう。内外の研修を受ける機会の確保に努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の同業者との交流や勉強の場として「いとの会」を設け、視野を広めネットワーク作りに役立てている。各研修も他施設との交流の場としている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の性格を理解し、思いを傾聴し希望等をその都度相談して頂けるような関係作りに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いや不安な事を聞き、職員から家族へ日頃の近況報告を行い、関係づくりに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の今までの生活歴や本人家族の希望を聞き、ホームの特徴を伝え情報として他のサービスの利用も可能である事を伝えている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの状態に合わせて、出来る事への支援を行う。入居者とスタッフがコミュニケーションを図る事で情報が多く、支え合う関係が出来ている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事やお誕生日会の時は、家族の参加を呼びかけ一緒に過ごす事で楽しい時間を持って頂く様にしている。年2回の機関紙(あおいだより)を発行し、ホームの生活状況や行事について知らせている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方や知人が訪ねて来られた時はお茶をお出しし、ゆっくりとお話しが出来る雰囲気と場所にも配慮している。		
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の性格や相性を考慮して席を決めたり、コミュニケーションもスタッフが間に入り支援を行っている。レクは1F2F合同で行い、多くの入居者同士が関われる様になっている。たまたま面会に来られたご家族も、大きな声で歌われる姿を見て、喜ばれている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当ホームを退居されても寄って下さったり、年賀状を頂いたりして近況知らせて下さる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向に沿った生活が送れる様に支援を行っている。聞き取りが困難な方にはご家族から聞いて頂いたり、その方の思いや視点に立ったつもりで対応を考えている。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や思い出話を本人や家族に聞き、その方に合った生活を重視したサービス内容を心掛けている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方のやりたい事を一緒になって考えていき、心身状態に合わせて無理なく1日を穏やかに不安もなく楽しく過ごして頂ける様に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のカンファレンスや状態変化が見られた時にも家族やスタッフと話し合いをもっている。又必要に応じて訪看や主治医に相談し意見や指示をもらいながら介護計画を作成している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌に日々の様子やケアの実践の結果や気づき等を個別に記録している。毎朝の申し送りで情報を共有しながら計画の見直しを必要とする時は70アミーティングを行い、介護計画に生かす事が出来ている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の面会時には時間の許す限り寄り添い談笑して頂いている。併設するデイサービスとの交流もあり各行事や天候の良い日は合同で屋外食やお茶を楽しんで頂いている。1日毎に1F.2Fを移動し歌・レク・体操等している。たまたま来訪された家族がその様子を見られ喜んでおられる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	特養のお茶会・野球観戦・福岡タワー見学・花見ドライブ等に出かけ喜んで頂いている。外に出る事で生き生きとした表情を見せて下さり、ご家族も様々な支援に喜んで頂いている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族に内科・精神科・眼科・歯科の往診が受けられる事を説明し、家族の意向を踏まえ納得の得られた上で主治医を決めて頂く。又、訪看ステーションとの医療連携を結んでおり、24時間体制で適切な対応を受けられる事も説明している。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護・介護職は日常の気づきや情報を常に伝え周知し、訪看の訪問時に報告相談をしている。緊急時には訪看の平野氏に伝え適切な指示を受けて対応している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはホームの主治医・訪看・職員が関わり、医療機関にて情報交換や退院時には指導を受けている。退院後は訪看より身体や生活面の問題点等の看護上の指導も受けている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	定期的に家族と面談をして、終末ケアについての話をし家族の意向を聞いている。当ホームは看取りも行っている事も伝え安心されているご家族もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救急法研修に参加し、心肺蘇生法・出血時の止血法の訓練を行っている。研修に参加する事でスキルアップに繋げている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署の立ち会いのもと避難訓練を行っている。地震・水害時の避難経路も周知している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重し、目線を合わせて傾聴し、プライバシーを損なわない様に声かけをして対応している。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に利用者の思いや訴えを察知し、入居者がどうしたいのか考え、対応する様にしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活歴に合わせて無理強いする事なく希望に沿うように声かけや支援を行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回の訪問美容を行っている。イベントでは整容し、お化粧品・アクセサリ・服装でおしゃれを楽しむ支援を行っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食で飾りに使う、爪楊枝の先に季節の物(梅、やっこ等)を切ったり貼ったりして作って頂いている。又、野菜の皮むきなど入居者が出来そうな事を職員と一緒に楽しみながらできる様準備をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	身体機能(咀嚼・嚥下等)に合った物や主食・副食の形体・嗜好を考慮し、残菜を少なくするように工夫し摂取を促している。 水分摂取の確認(お茶・牛乳・ホカリ)を毎日記録している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの能力に合わせ、毎食後口腔内や舌のケアや磨き残しの無い様にチェックしている。うがいが出来ない方には口腔ティッシュ・スポンジブラシを使用し、常に口腔内の清潔を保つようにしている。義歯は夜間ホリデントに漬けている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の排泄パターンを把握し、声かけにも工夫を行い、排泄がスムーズに行なえる様に努めている。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者の排便のパターンを理解し、水分量や食事量を把握している。毎日のラジオ体操・リハビリ体操で体を動かす様に努めている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は毎日午後に行っている。 体調・バイタルチェックをして声かけをしている。 拒否がある時は無理強いせず、時間をおき再度声かけをする様にしている。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は体調・状態を考慮し、臥床や休憩時間をもうけて対応している。 就寝は一人ひとりの入眠時間に合わせ臥床を促している。夜間は1時間毎の巡回を行っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの処方把握し、指示通りの服薬支援を行い、症状や体調の変化は訪看平野氏に報告し主治医の指示を仰ぐ。変更の場合は職員に周知する。変更後の状態は平野氏に報告する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員と共に洗濯物干し・たたみやお盆拭き等のお手伝いをして頂き、常に「ありがとうございます」と声かけをして“達成感”や“役にたっている”と言う気持ちを持って頂ける様に支援している。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お天気の良い日は庭に出てレク・お茶・屋外食等を行っている。車で外出可能な方は、特養でのお茶会・福岡郊外見学・ドライブ等にお連れしたりして支援をしている。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者はお金の管理が出来ない為、本人の希望があれば家族の了解を得てスタッフと買い物に出かけたりする。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	「電話をかけたい」との要望には、ご家族の了解のもと電話をかけお話しをされて安心されている。手紙ハガキは自分で書くことが出来ない方は代筆し対応している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は常に清潔に保ち、温度湿度に注意し、居心地良く過ごせる様に努めている。季節を感じて頂ける様に壁に行事毎の写真や飾り(お正月・雛壇・七夕・クリスマス)を飾っている。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを置きTVを観られる様にしている。読書やパズルを楽しまれる方はテーブルで過ごされ、常に行動や想いを把握し、思い思いに過ごせる様に工夫している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、以前使用されていた品物を用意して頂き、少しでも不安を取り除いて頂く様に配慮している。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室のドアには氏名を入れ、自室が分かる様にしている。入居者の状態に合わせ、テーブルやソファの配置配席に配慮し、安全に過ごせる様に工夫を行っている。		